

初恋を思うべし

南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館

NO.5 (2017年3月1日号)

2017年を迎えました。日本だけではなく地球規模の天変地異は、日本列島の景観や森林を壊し、農作物に及んだ被害は人々の生活基盤までも取り上げてしまいそうな状況です。人間の営みの歴史は繰り返され、かつて聖武天皇の切望された「大仏」への祈りと救い、また大伴家持が新雪と「言葉」に託した思いに共感できるような気がします。

さて、記念館で顕彰しております犬養孝先生が、ご存命であれば今年の4月1日で生誕110年という佳き年に当たります。そこで今年は生誕110年を記念して、より魅力的な行事を展開していきたいと計画中です。また、中秋の名月を楽しむ「万葉の明日香路で月を観る会」も、なんと第50回という半世紀の節目の機会となり、感慨の深い機会となりました。全国の万葉ファン、犬養先生ファン、明日香村ファンの方々と集い「よき時」を過ごしたいと願っております。どうぞ楽しくご参加ください。



▲12月4日(日)明日香村公民館で明日香村伝承芸能保存会の万葉朗唱の会の方々の発表会「記紀万葉朗唱フェスティバル」が行われました。館長も協力し、半年の準備を経て心をつにして臨んだ舞台でした。達成感と絆に笑顔で記念撮影です。

犬養先生の碑



2月11日にようやく明日香村に雪が積もりました。民俗資料館の庭にあったこの歌碑も、施設の改装に伴い、少し場所が変わりました。雪景色の貴重なショットです!

㊸ 大口の 真神の原に
降る雪は いたくな降りそ
家もあらなくに
(巻8-1636 舎人娘子)

記念館歳時記



春夏秋冬、年4回開催している「チコンキ・カフェ」。蓄音機そのものに詳しい脇田名誉館長、蓄音機のメカから歴史まで蓄音機博士の宮田さん、そして多彩な音楽ジャンルの蘊蓄を披露してくださる中西さんによって、アナログな、また心懐かしい世界に引き戻してもらえる貴重な機会が、定着してきました。次回3月19日(日)は「早春のワルツ」を蓄音機で聴きます♪



新年の特別展示は1か月間にわたり、古代衣裳研究家の山口千代子先生の冠位十二階を中心とした、古代衣裳展を開催しました。試着体験の機会もあり、鮮やかな色彩・身分に応じた規則・大仏開眼時の絵巻物からの聖武上皇の衣裳の復元など、記念館にふさわしい「学び」の場となりました。

これからの予定

- 3月12日(日) 第27回 館長の万葉講座
- 3月19日(日) チコンキ・カフェ「早春のワルツ」
- 4月2日(日) 第17回 若菜祭 (10時ご神事・13時から講演その他)
- 4月15日(土) 万葉植物野外講座 馬場吉久講師
- 6月4日(日) 犬養先生を語る③「犬養先生と清原和義先生」

山内英正氏

※広報あすかで毎月お知らせをしています。
詳細は、ホームページでご確認いただくか、
直接お問い合わせください。



飛鳥保存問題は時の総理大臣佐藤栄作を抜きにして語れない。側近と共に甘樫丘に立ち、犬養先生から現地説明を受けた。佐藤総理は1921年に旧制第五高等学校の文科丙類を卒業、犬養先生は1929年に同校の文科甲類を卒業したので、先輩・後輩という親近感があった。総理は古典や文化財にも造詣が深かったので、政治力が期待された。総理は日記の中で、「犬養博士」ではなく「犬養先生」と記述している。学識者一般に対しては〇〇博士や〇〇教授の呼称を用いているので、この記述には佐藤栄作の犬養孝に対する思いがよく表れている。

『佐藤栄作日記』(全6巻、朝日新聞社)には、飛鳥保存問題に関わる記載がある。便宜上、通し番号を付して、総理の公的な明日香村訪問前後の関連記事を、先に抜粋列記する。

①昭和45(1970)年6月6日 土

十時から前田正男君が、明日香の村長[岸下利一]その他と一緒にやって来て、保存問題を話合ふ。

②6月28日 日

朝九時半の「光」で西下、京都駅で奈良電に乗りかへて大和路の見物につく。奈良駅で下車、近鉄の newly 建設した奈良ホテル別館に入り、県庁、若草山等の景観をながめ、記者会見。対話は大部分「明日香」の里の問題に集中。保存と開発と地域住民の生活との三者の調和にありと説明する。その為中央、地方自治体、地域住民の意見を十分に聴取して対策をたてると説明。会見を終ってすぐに保存にとりかっている「平城宮跡」を観る。全時に現地で説明をきく。次は大三輪[大神]神社に参詣。……次に藤原宮跡を見る。小学校の敷地になっており、只今も移転問題が起っている最中。何処も全じ。新地点の選択でまだ意見が一致しない由。然し校庭のすぐそばに大極殿の跡があり、史跡保存の立場からは絶対移転。橿原市長[好川三郎]も頭が痛い由。次は愈々明日香村に入り、甘樫ヶ丘に上って全貌を見る。発見とれおる史跡はすでに数十。遺跡、古墳等多く、殊に当時のならはして帝一代で宮を造営された為宮跡も多く、御陵も数多い。誠に歴史上わすれ難いもの。万葉の犬養[孝]先生や考古学の権威末永[雅雄]、寺尾[勇]博士等の説明を入り代り立ち代りきく。先生方にも今後の処置についての意見もあり、是非聴かねばならぬ。「保存と開発と生活」の問題で、一と三が重点。前村長[脇本熊治郎]並に現村長も共に説明してくれる。殊に今迄原型のまま維持して来た前村長や地域住民に感謝しなければならない。大阪のベッドタウンとして開発寸前にあったこの地を守り抜いた功績は立派なもの。尚この地には佐々木更三君も西村栄一君も小生より一足先に現地調査済みの由。だから超党派で立派に維持保存が出来、地元住民の生活を守る事が出来るに違いない。自民党の「明日香を守る会」の会長は橋本登美三郎君、今後はこの会も超党派にする事が必要。現地を見てからバスで大阪ロイヤルホテルに直行。因に今回の使用車は全部バス、多い時はそれでもバス三台となる。

③7月7日 火

三時からTBSで井上靖君や今日出海君と対談、明日香を語る。考へさせられる話題で、余り出来はよくない。

④7月8日 水

官邸では前田正男君が犬養先生を連れだって明日香の

御礼に来て居た。尚前田君は貴国談一くさり。

⑤8月25日 水

堀木鎌三君が飛鳥保存並に同和対策で答申案をもって来る。

⑥9月10日 木

十時から一日内閣【正式には国政に関する公聴会】打合せ並に飛鳥村保存処置の報告。午前中はこれでふさがり。
(以上、『佐藤栄作日記 第四巻』1997年)

1970(昭和45)年は全国の大学・高校紛争が漸く下火となり、千里丘陵で日本万国博覧会が開催され、日米安全保障条約が自動延長された年であった。また、飛鳥保存問題が政治の舞台で大きく動いた年でもあった。5月20日に橋本登美三郎氏を会長とする「飛鳥古京を守る議員連盟」が発足し、その発足式で犬養先生が「飛鳥古京と万葉の心」と題して講演した(『「飛鳥古京を守る会」議員連盟設立総会要録』に要旨所収)。約1ヵ月後の6月28日、佐藤総理が自由民主党の重鎮と共に奈良市・橿原市・明日香村を視察に来た。そして7月16日に総理府で「歴史的風土審議会」が開催され、12月18日に「飛鳥地方における歴史的風土および文化財の保存等に関する方策について」を閣議決定した。

②に記述されているように、風土景観の保存と住民生活を如何に調和させるか、犬養先生を始め、村の方々も熟慮思案し続けていた。佐藤総理にその思いは十分に伝わった。

1971年と1972年の『佐藤栄作日記』には、飛鳥問題の記述は全く出てこない。

村内では、岡寺駅と橘寺駅(現、飛鳥駅)に隣接する檜隈は開発地域にしてもよいではないかという意見もあったが、犬養先生は猛反対した。檜隈は飛鳥の大学院コースだと力説し、飛鳥らしさはこちらに移った感がするとまで言っていた。甘樫丘や飛鳥寺・石舞台古墳に観光客が大勢訪れても、檜隈は閑寂そのものだった。ところが1972年3月21日に高松塚古墳の壁画が発見されると、一転して空前の飛鳥ブームが起こり檜隈は見物人で満ち溢れた。高松塚の地番は上平田444番地であったため4は死に通じるとして、地元民のなかにはここを破壊すると祟りがあると信じる人もいた。それで古墳は守られてきたという“村落伝説”もあった。飛鳥保存問題は日本の文化行政の試金石であった。また、“70年安保闘争”の政治激突のすぐあと、与野党の政治家がこれほど真剣に関わった地域は他にはなかった。

《次号に続く》

編集後記

★今年が犬養先生の生誕110年ですが、国民文化祭も奈良県で行われますので、「秋の明日香村」は大賑わいとなりそうです。記念館のミュージックフェスト・飛鳥アートヴィレッジなどの会場提供も経験し、まさに南都明日香ふれあいの館になってきました。この賑わいを犬養先生はきっと喜んでおられることでしょう。